

ガザは軍事的な緊張状態に度々さらされる場所  
しかしここにも日常があり、普通の人々が暮らしている ——。



# あなたの知らないガザの人々の素顔

## サーファーにラッパー、40人子どもがいる漁師のおじいちゃんなど個性豊かな人々が登場

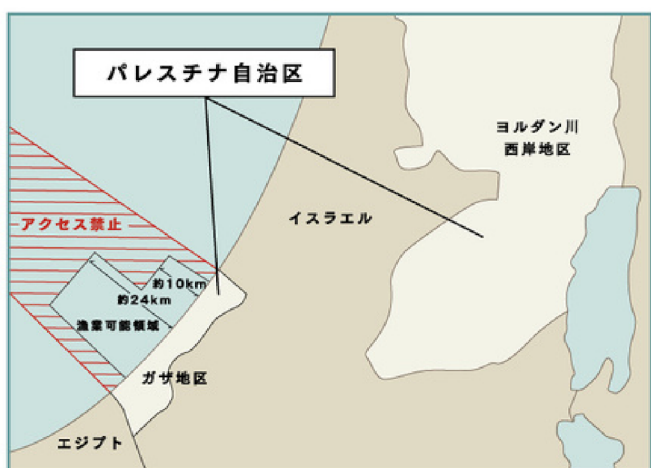
あなたはガザ地区と聞いたら、どんな場所をイメージするだろうか？「世界で最も危険な場所」「紛争地」「ミサイル」「戦車」など危険な戦争のイメージを思い浮かべるのではないだろうか？そんなあなたはこの映画で全く違うガザの一面を発見することだろう。穏やかで美しい地中海に面しているガザの気候は温暖で、花やイチゴの名産地。若者たちはサーフィンに興じ、ビーチには老若男女が訪れる。海

辺のカフェの飛び切りハイテンションな店主に朝会えば、間違いなく誰もが幸せな一日を過ごせるはずだ。他にもタクシー内で歌う人々やあふれる想いを叫ぶ若いラッパーに、妻が3人、子どもが40人いる漁師のおじいちゃんなどが登場する。こんな個性豊かなガザの人々にきっと魅了されるに違いない。



## 「平和が欲しい。ただ普通に暮らしたい。」

しかし現実とは過酷だ。東京23区の6割ぐらいの狭い場所にパレスチナ人約200万人が暮らすガザの住民の約7割が難民で貧困にあえいでいる。イスラエルはガザを壁で取り囲むのみならず、2007年以後は物資や人の移動も制限する封鎖政策を続けており、陸も海も空も自由が奪われたガザは「天井のない監獄」と呼ばれる。2014年と2018年の戦争では、多数の学校、病院、家屋、発電所などが破壊され、多くの命も失われるなど、ここには命の保証もない。それでも日常を力強く生きようとする人々がいる。19歳で現実逃避するためにチェロを奏でるカルマは海外留学して国際法や政治学を学びたいと考えている。14歳のアフマドの夢は大きな漁船の船長になり兄弟たちと一緒に漁に出ることだ。「欲しいのは平和と普通の生活」。ガザの人々は普通の暮らしを今日も夢見ている。



OCHA 2020年10月データより



監督:ガリー・キーン、アンドリュー・マコーネル  
プロデューサー:ブレンダン・J・バーン、ガリー・キーン、アンドリュー・マコーネル、ポール・カデュー  
エグゼクティブ・プロデューサー:トレバー・バーニー、クリスティアン・ベーツ、マリズ・ルイヤー  
撮影監督:アンドリュー・マコーネル 編集:ミック・マホン 音楽:レイ・ファビ  
配給:ユナイテッドピープル 92分/アイルランド・カナダ・ドイツ/2019年/ドキュメンタリー  
unitedpeople.jp/gaza/



映画の上映会主催者募集!  
詳しくは [cinemo.info](http://cinemo.info) へ

お問合せ [film@unitedpeople.jp](mailto:film@unitedpeople.jp)

※当日はオンラインでのご登壇になります。

## 金城美幸さんプロフィール

立命館大学生存学研究所客員研究員、パレスチナ地域研究。論文に「パレスチナとの交差を見つけ出すために——交差的フェミニズムと連帯の再検討」在日本韓国YMCA『交差するパレスチナ——新たな連帯のために』、新教出版社、2023年。「イスラエルの新自由主義政策と刑務所システム——パレスチナ人支配の強化とグローバルな連帯」松下列・山根健至編著『新自由主義の呪縛と深層暴力——グローバルな市民社会の構想に向けて』ミネルヴァ書房、2023年など。研究のきっかけは在日朝鮮人3世として日本の植民地主義と国民国家の暴力とイスラエルのパレスチナ支配の類似性に関心を持ったこと。パレスチナ/イスラエルに通算で4年間滞在。